

- 1997.8.31** 第12回 気候変動問題研究会
「家庭部門におけるCO2排出の現状と削減策」鈴木靖文氏（京都大学大学院）
「業務部門におけるCO2排出の現状と削減策」佐藤健明氏（立命館大学）
「気候変動問題を巡る国際情勢-AGBM7報告」川阪京子氏（CASAコーディネーター）
- 9.21** 第13回 気候変動問題研究会
「日本における太陽光発電の現状と課題」尾形祥子氏（大阪外国語大学）
「再生可能エネルギーをいかに導入するのか」和田武氏（立命館大学教授）
- 11.16** 第14回 気候変動問題研究会
「なぜ、CASA、環境庁、通産省モデルの数値が異なるのか」
上園昌武氏（大阪市立大学大学院）
「気候変動問題対策による経済的インパクト」林宰司氏（京都大学大学院）
「気候変動問題を巡る国際情勢-AGBM8報告」川阪京子氏（CASAコーディネーター）
- 1998.1.11** 第15回 気候変動問題研究会
「COP3を終えて」山村恒年氏（関西学院大学教授）
「京都議定書の評価」早川光俊氏（CASA専務理事）
「COP4に向けての課題」上園昌武氏（大阪市立大学大学院）
- 2.15** 第16回 気候変動問題研究会
「森林の科学と今日の問題」八木俊彦氏（鳥取大学助教授）
「シンクについてシンクする-吸収源について考える」橋本征二氏（京都大学大学院）
- 4.5** 第17回 気候変動問題研究会
「共同実施とクリーン開発メカニズム」加藤久和氏（名古屋大学教授）
「ODAにおける環境配慮の現状と問題」神田浩史氏（地域自立発展研究所）
- 5.17** 第18回 気候変動問題研究会
「温室効果ガスとしてのフロン」泉邦彦氏（元・京都工芸繊維大学教授）
「代替フロンに関する国際交渉と日本の国内政策の現状」
松本泰子氏（東京理科大学諏訪短大助教授）
- 7.5** 第19回 気候変動問題研究会
「日本のエネルギー政策」山村恒年氏（関西学院大学教授）
「京都会議以降の国際動向-6月ボン会議報告-」橋本征二氏（京都大学大学院）
- 8.30** 第20回 気候変動問題研究会
「排出量取引、共同実施、CDMの最近の論点について」川島康子氏（国立環境研究所）
「国内における温暖化防止政策の検討-CASA報告書を中心に-」
上園昌武氏（大阪市立大学大学院）
- 10.25** 第21回 気候変動問題研究会
「国際環境条約の遵守確保メカニズム-モントリオール議定書を素材に」
高村ゆかり氏（静岡大学助教授）
「COP4の争点とCASAのポジションについて」早川光俊氏（CASA専務理事）
- 1999.1.10** 第22回 気候変動問題研究会
「COP4の概要と評価」川阪京子氏（CASAコーディネーター）
「共通だが差異ある責任?~途上国参加をめぐる交渉の現状」橋本征二氏（京都大学大学院）
「京都メカニズム（柔軟性措置）をめぐる交渉の現状と課題」
上園昌武氏（大阪市立大学大学院）

CASA の意見書と提言紹介

- 1988.10.17** 「大気汚染を考える全国市民会議」アピール
- 1989.9.8** 地球環境保全と大気汚染防止のための京都・大阪アピール
- 1990.4.22** アース・デー1990アピール
- 10.19** 日本政府に対する地球温暖化対策についての要望書
- 1991.5.23** ヒューストンサミット（G-7）へNGOの共同提言
- 8.** 「地球憲章」に対するCASAの提言
- 8.22** 地球サミット第3回準備委員会での意見表明
- 11.** 地球環境研究者会議 提言「地球温暖化を防止するために」
- 12.2** OECD環境相会への3NGO連名で提言
- 12.17** UNCEDへの提言「かけがえのない地球を救うために！」
- 12.18** パリ会議の条約問題のワークショップにおける発言
- 1992.9.24** OECDとNGOの非公式会議におけるCASAの声明
- 10.** 「環境基本法」制定に対する要望書
- 12.** 環境基本法案に対するCASAの意見書
- 1993.4.24** よりよい環境基本法を求めるアピール
- 7.13** 東京サミット（G-7）に対する関係諸国NGO共同要請書
- 1994.2** 日本政府の「地球温暖化防止行動計画」の問題点
- 5.** 日本政府の「アジェンダ21」に対するCASA提言の概要
- 7.11** 気候変動条約の通報の審査についての要望書
- 7.** 地球温暖化問題についての政府申入書
- 8.8** 「気候変動枠組条約」の国別報告書（政府素案）に対するCASAの意見書
- 9.19** 「環境基本計画検討の中間とりまとめ」についてのCASA意見書
- 1995.1.27** 地球温暖化問題についての政府申入書
- 3.24** COP1に向けたCASAの提案「地球温暖化を防ぐために」
- 4.22** アース・デー1995ネットワーク・大阪アピール
- 1996.1.31** 地球温暖化問題に関する環境庁のヒアリングに対するCASAの意見
- 7.18** COP3に向けて橋本総理大臣宛のNGO署名（日・英）
- 8.8** 今後の環境アセスメント制度のあり方についての意見（要旨）
- 9.10** 今後の環境アセスメント制度のあり方についての意見（全文）
- 10.24** 地球温暖化問題に関する特別委員会中間報告（案）に対する意見
- 12.9** 気候変動枠組条約事務局に提出された日本政府の議定書案についての見解
- 1997.10.6** 日本政府の温室効果ガスの数値目標提案の撤回を求める声明
- 10.30** 地球温暖化国内対策に関するヒアリングに対する意見書
- 10.31** AGBM8プレスリリース「削減議定書の策定に全力を」
- 10.** CO2排出削減戦略の提言 Progress Report Phase I（日・英）
- 11.19** 気候変動枠組条約第2回国別報告書（案）に対する意見
- 12.11** COP3プレスリリース
「抜け穴だらけの議定書は人為的な気候変動の防止に実効性はない」
- 1998.3.19** 「省エネルギー法」改正案に対する意見書
- 5.20** 地球温暖化防止対策を推進するための政策と措置についての提言
- 7.15** 「産業界におけるCO2排出削減対策について（1998.6.3）」に対する評価
民生部門・業務部門および運輸部門における省エネルギー対策の効果
-通産省見込みとCASA研究の比較-
総合エネルギー調査会需給部会中間報告（電力関連）電気事業審議会中間報告に対する評価

- 1998.10 COP3以降の地球温暖化対策に対するCASAの見解 (日・英)
 11. 日本の環境NGO6団体による京都会議以降の日本の温暖化対策についての分析 (日・英)
 COP4に向けてAANEAsとして共同声明 (英)
 11.13 CAN (気候行動ネットワーク)「COP4における大臣への提案」・短編 (日・英)
 CAN (気候行動ネットワーク)「COP4における大臣への提案」・長編 (日・英)
 12.3 COP4プレスリリース「交渉の停滞は許されない」
 1999.1.10 気候変動枠組条約第2回国別報告書詳細審査に対するCASAの意見書 (英)
 1.29 「地球温暖化対策に関する基本方針 (素案)」ブロック別ヒヤリングにおける提案
 「地球温暖化対策に関する基本方針 (素案)」に対する意見陳述原稿

CASA 出版物紹介

- 1992.5 ビデオ「湾岸戦争による環境破壊」 7000 (2000) 送料込み
 1993.5 「地球サミット資料集」
 1996.6 ブックレット「しのびよる地球温暖化」かもがわ出版 550 (500) 送料別
 1997.10 「CO2排出削減戦略の提言」要約版 1000 (800) 送料込み
 「CO2排出削減戦略の提言」本編 5000 (3500) 送料込み
 1998.5 「地球温暖化防止対策を推進するための政策と措置についての提言」 1000 送料別
 7. 「みんなで考えようダイオキシン」 100 送料別
 9. 「温暖化を防ぐ快適生活」かもがわ出版 600 (550) 送料別

CASA Letter 紹介

- 1991.2 No.1 92年UNCEDへ向けCASA理事会
 8. No.2 “地球サミット”
 11. No.3 地球サミットを成功させるシンポと集い
 1992.2 No.4 世界NGO会議でCASA提言
 5. No.5 “地球サミット”に何を提言するのか
 7. No.6 地球サミット閉会成果を上げた世界NGOの活動
 12. No.7 パネルディスカッション「環境基本法を考える」開催される
 1993.5 No.8 “グローバルフォーラム'94”開催
 9. No.9 持続可能な開発に関する委員会(CSD)に井上氏CASA代表として参加
 11. No.10 “グローバルフォーラム'94”概要まとまる
 1994.4 No.11 CSDへ世界8地域のNGO代表が決定
 8. No.12 「環境基本計画シンポジウム」を開催
 1995.2. No.13 CASAが国連の経済社会理事会(ECOSOC)の登録NGO(ロスター)に
 12. No.14 気候変動枠組条約第3回締約国会議、京都で！ベルリン気候サミットの報告
 1996.9 No.15 COP3、来年12月に京都で開催！
 1997.4 No.16 第7回総会を開催-COP3への取り組みの強化などを決定
 7. No.17 国連環境特別総会(地球サミットII)開催！
 10. No.18 CO2排出削減戦略の提言を発表-2010年CO2排出20%削減は十分達成可能！
 11. No.19 12月1日 COP3いよいよ開幕
 1998.1 No.20 COP3京都議定書を採択して閉幕-京都議定書の評価と今後の課題
 4. No.21 CASA第VI期地球環境大学5月開講
 6. No.22 地球温暖化防止対策を推進するための政策と措置についてCASA意見と提言を発表！
 10 No.23 西淀川裁判 国・公団と勝利和解/国内の地球温暖化防止政策課題
 1991.1 No.24 21世紀まであと2年/COP4-停滞する交渉・COP4参加者体験記

CASA 設立 10 周年によせて

CASA 設立 10 周年によせて、国内外の環境 NGO よりお祝いのメッセージを頂きました。他の環境 NGO との連携は、CASA 設立当初より、重要な活動目的の 1 つです。大気公害被害者支援、地球サミットへの参加、東アジア大気行動ネットワークそして、地球温暖化京都会議と、国内外の NGO との連携が、問題解決に大きな役割を果たしました。これらからも協力関係を維持・強化し、共に 21 世紀にむけて発展し、環境問題解決のために努力していきたいと考えます。メッセージをお寄せいただき、どうもありがとうございました。

気候ネットワーク・ヨーロッパは、気候行動ネットワークの西ヨーロッパのメンバーを代表し、貴団体の設立 10 周年記念を心よりお祝い申し上げます。私どもは、貴団体の活動は国際的にも重要で、また、気候変動問題を解決する上で、日本は、重要な役割を果たすと考えます。というのも、日本は、相当の温室効果ガスを排出しており、国際社会において、温暖化を防止するための活動を触発し、奨励する役割を果たす国として重要だからです。

CASA は、国連の交渉プロセスにおいて、真に活躍している団体です。多くの政府代表者が、CASA の意見と創造的な提案に強い関心をもっています。ヨーロッパは、産業効率や自動車技術等の分野でもっと日本から学ぶべき点が多くあります。しかし、原子力に代わる実行可能で短期的な対案という

日本が抱えるより緊急の問題に対し支援することもできます。

気候ネットワーク・ヨーロッパは、貴団体の 10 周年を心よりお祝い申し上げますと共に温暖化問題における今までの変わらぬ協力にお礼を申し上げます。

これからもより強い協力関係が続きますよう、お祈り申し上げます。

1992年2月20日

気候ネットワーク・ヨーロッパ
 デリア・ヴィラグラサ (代表)
 リアン・サルター (エネルギー専門家)
 リン・クラーク (コーディネーター)
 インガ・レナ・ヘニッヒ (テクニカル・スタッフ)
 マレク・ハルドルフ (コンサルタント)

CASA 第 8 回総会および 10 周年記念シンポジウムのご成功を心よりお祝い申し上げます。

貴会が設立されて早や 10 年の歳月が流れ、この 10 年間のご活動とその蓄積は、日本は勿論のこと、世界の NGO として信頼され、評価されるものとなられたことに敬意を表します。

私たち大気汚染の公害患者の会としてはたいそうお世話になりました。西淀川大気汚染公害訴訟をはじめ数々の大気裁判に大きな力をいただきました。裁判では勝利を重ねてきておりますが、大気汚染の状況は、汚染の世界的な広がり、新たな汚染物質など、一向に改善されておらず、ますます貴会のご活躍が期待されるどころです。

私たちも生きていくかぎり、次代によい環境を残したいと頑張り所存です。貴会のご発展を祈念して連帯のメッセージと致します。

1999年2月20日
 全国公害患者の会連合会

CASA 設立から 10 年にわたり、その名にありますように、地球環境と大気汚染について市民の立場から貴重な活動を続けてこられました。大気汚染の根源を差し止めるたたくは日本に不可避であった社会経済構造の転換を加速させ、今、市民による地域再生へと、新しい挑戦がなされていることに敬意を表します。

また、1990 年代から地球環境問題に取り組み、今日まで継続してこられた蓄積は、既に気候変動の影響が現われている一方で実効性ある対策がとられていない日本の現状にたらし、貴重な政策提言の基盤をもたらしています。

将来世代への私たちの責任を日本と世界の市民とともにさらに果たしていられるものと期待しています。

1999年2月20日
 気候ネットワーク代表 浅岡美恵